



取 材 テ ー マ

地域を活かす 新たな力になる 高校生

近年、力を入れて取り組む学校が増えてきている「探究型」の学習。科学や歴史、芸術、文化など自由にテーマを設定できる中、「地域活性化」をテーマに活動する高校生たちを紹介します。



鶴岡南高校

Cradle
高校生編集部が行く
スゴハイ 17
SUGOI high school students in Shonai
Supported by
庄内広域行政組合、山形県庄内総合支庁

10月、鶴岡駅前のFOODE VERで開催された「鶴お菓子まつり」。高校生によるスイーツコンテスト「鶴お菓子甲子園」や、お菓子などの大きな絵をみんなで描く「手形アート」など、お菓子にまつわる催し目白押しこのイベント、中心になり企画運営を手がけたのは鶴岡南高校の5名の2

年生たちだ。探究型学習「鶴南ゼミ」のテーマとして「駅前の活性化」を選び、半年間かけて企画を練り上げ形にした。当日はたくさんの方が訪れ、会場は大賑わい。成功を支えた要因の1つは、さまざまな人に参画してもらったこと。当初から協力してくれていた店主もいたが、活動をより効果的なものにするために商店街全体、市の商工課にも協力を呼びかけ、ともに準備を進め

た。「企画づくりやプレゼンなど、アイデアの伝え方を考えるのが大変でした」と朋佳さんは言う。企画に対し厳しい指摘をもらうこともあったというが、それは大人たちも本気だったということ。彼女たちの確かな熱意を感じ取った証拠だ。ターゲットを明確に設定できたことも勝因だろう。「親子連れをターゲットにし、企画を進めました」という詠美さんは、会場に展

世代を超えて本気でぶつかり、
地域に新しい力を。



(左から)豊原朋佳さん、安野ななみさん、佐藤ほのかさん、佐藤亜美さん、佐藤詠美さん。当日も忙しく動き回り、見事イベントを成功に導いた。

示する絵を描いてもらうため、市内の幼稚園をお願いして回った1人。子どもたちの絵は会場を彩るだけでなく、来場を促す力にもなった。もちろん、イベントに人が集まるだけでは活性化にならないことは、彼女たちも十分理解している。クイズを解きながら駅前商店街を巡る「駅前探検」を企画したのも、駅前のことを知ってもらうことが再来訪のきっかけとなり、活性化につながる考えたからだ。雨のため館内開催となってしまったが、「鶴岡に関するクイズを、子どもだけでなく大人も一緒に楽しんでくれたのが嬉しかったです」と亜美さんは笑う。さらに、今後の活動につなげるため、駅前に対する意識調査のアンケートもしっかりと行った。結果を踏まえ、継続可能な活性化プラ



庄内農業、鶴岡中央、鶴岡南の3校から2チームずつが出場した「鶴お菓子甲子園」。プロも唸らせるほどのハイレベルな戦いが繰り広げられた。

ンを検討していく予定だという。ゼロから物事を形にする経験は「大変だった」と口を揃えるが、「活動のこと以外にも、地域の大人たちいろいろな話ができてもおもしろかったです」とななみさん、「高齢化や人口流出など、地域が抱える課題を自分事として考えられるようになりました」とほのかさんと言う。地域との交流を通じ彼女たちの中に生まれた小さな変化が、地域の未来を拓く鍵になるだろう。(取材・鶴岡南高文芸部)

酒田東高校

「私が所属する生徒会の活動に対していただいた『庄内米で何かやってみたら?』というアドバイスが、そもそものきっかけでした。探究型課題研究の中で、米を使った地域活性化に取り組み「米こーラボ」のリーダー、富樫さんは言う。より効果的な活動にするためには地域に根ざした米のスペシャリストの力が必要だと考え、酒田米菓株式会社を依頼。連携をとりながら活動を展開する。

現在の取り組みは大きく2つ。1つは、米を使った商品開発だ。高校生による商品開発は珍しい話ではないが、ターゲットの絞り込み、SNSを活用したニーズ調査など、戦略的に進め精度の高い商品開発を目指している。「勉強を頑張る中高生をターゲットに、栄養価や食感などで脳にいい効果を



新商品の試作には、1年生の菅原碧空さんも助っ人として参加してくれている。



与えることができ、かつ勉強中にも食べやすいお菓子を考えています。友人たちの中にはカロリーを気にする子も少なくないので、その辺りも気をつけて試作を重ねています。受験シーズン前の発売を目指し、味や形状を詰めながらパッケージデザインやネーミングの検討も進行中だという。

もう1つは、ギネスへの挑戦だ。「活動のことはもちろん、酒田市



のことを海外にもPRすることが狙いです」とギネス挑戦チームの藤井さんは言う。「さかた産業フェア」で、



さかた産業フェアでのギネス挑戦の様子。世界記録に認定された文(上写真上部)のほか、校章や酒田米菓のロゴマークなどさまざまな図柄をせんべいで描いた。



多くの地元企業・住民が見守る中、3803枚のせんべいで「酒田から世界へ!! 米文化を未来へ!!」の文を書き、見事世界記録を樹立した。「せんべいのカウントが済んで認定の盾をもらったときの達成感、今まで経験したことのない大きなものでした。」「勉強」とは一味違ったこの経験、2人にはどのような発見があったのだろうか。「地域のことを大切に思い、いきいきと働く大人たちに出会えたこと、彼らと一緒に活動し、自分の意見を持ち発信することの大切さに気づけたことが一番の収穫です」と藤井さん。「人との出会いを含め、知らなかった酒田の魅力がたくさん知ることができました。私たち2年生は今年度

いっぱい活動から離れますが、酒田がみんなにとっての『将来戻ってきたいまち』になるためにも、活動を継続し酒田を盛り上げていってほしいなと思います」と富樫さんは言う。

開発中の商品が完成したら、そのノウハウを活かしシンガポールの高校とも共同で商品開発を行う予定だという。世界へ、未来へとつながる活動の今後に、ぜひ注目してほしい。

(取材・酒田東高文芸部、酒田西高Cradle編集部)



(後列左から時計回り) 藤井創太さん、本間桜子さん、富樫美郁さん、大宮舞美さん、奥泉奈那華さん、高山みなみさん、青山知生さん。当日欠席していた田崎伶奈さんを含め8名が主体となり、活動を進めている。

世界に広がる活動が教えてくれた、地元酒田のいいところ。

編集後記

手形アートや鶴お菓子甲子園など、多くの世代が楽しめる企画をまとめ上げ、大規模なイベントを成功させた達成感や喜びは、とても大きかったらうなと思いました。鶴お菓子甲子園の作品は高校生がつくったとは思えないほどのクオリティだったので、ぜひ商品化してほしいです。(鶴南・わかば)

どうしたら地域を盛り上げる商品をつくることができるのか、一人一人が真剣に考え努力している姿が印象に残りました。また、この活動が同じ高校生によって考えられていることにとっても驚きました。授業として、地域について考え実践する時間があることは、素晴らしいことだと思います。(酒西・りょう)

編集部員&特ダネ まだまだ募集中!

「スゴハイ」の企画制作をやりたい高校生、「こんなスゴい高校生知ってる」「私、スゴいんです」などスゴい高校生の情報は随時募集中です。お気軽にご連絡ください。

ご応募・お問い合わせ先
Cradle事務局
info@cradle-ds.jp

編集・文=Cradle高校生編集部、工藤 拓也
写真=本間 聡美、間 真由美
協力=鶴岡南高等学校、酒田東高等学校、酒田西高等学校